

くも ち 熊内遺跡第8次調査現地説明会資料

2018.10.06
神戸市教育委員会

はじめに

熊内遺跡はJR新神戸駅の南東側、東西約320m、南北約220mの範囲に広がる集落遺跡です。生田川が六甲山系の山間部から平野部に流れ出した地点付近の左岸扇状地上に立地します。

平成元年度に遺跡が発見されて以降、7次にわたる調査がおこなわれ、主に弥生時代の遺構、遺物を確認しています。中でも、今回の調査地の西側で実施した第2次、第3次調査では、弥生時代後期の多量の土器とともに、二重の環濠を検出し、環濠集落であることがわかりました。また、同時代の^{たてあな}竪穴建物や掘立柱建物も多数見つかっています。

他にも、神戸市内最古となる縄文時代早期(12000年～7000年前)の竪穴建物や古墳時代前期(約1700年前)の竪穴建物、古墳時代後期(約1500年前)の^{どこうぼ}土坑墓、木棺墓などが確認されており、縄文時代から平安時代まで連綿と遺跡が営まれていたと考えられます。

今回の調査の概要

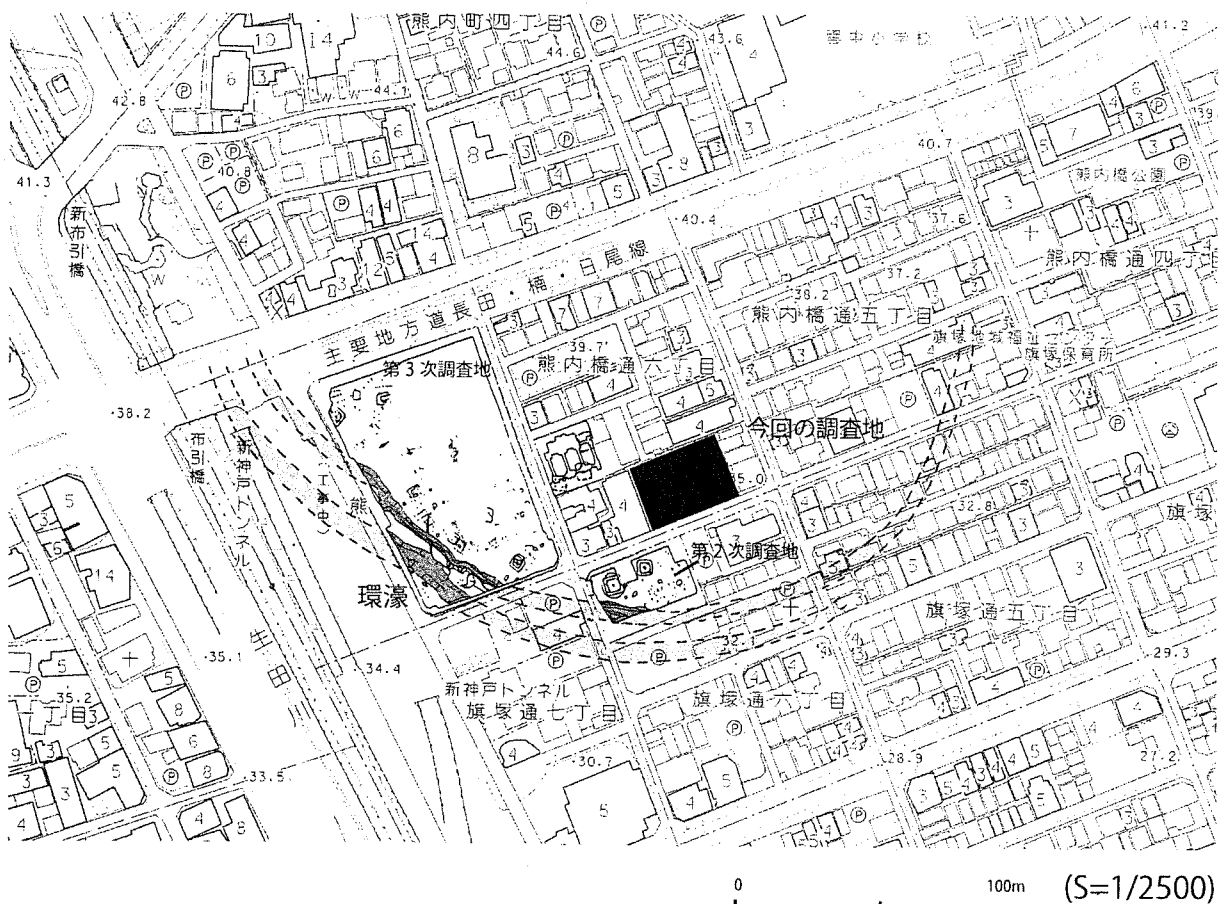
今回の調査地は、上記の環濠に囲まれた弥生時代の集落内部に当たります。主な遺構としては、弥生時代後期(約1800年前)の竪穴建物や溝、土坑、ピットを確認しています。

○竪穴建物

調査区中央北寄りにおいて、一辺4mほどの方形の竪穴建物を1棟確認しました。後世の耕作などにより、大きく削られており、深さは約5～20cmが残る程度です。竪穴建物の北側にはコの字状に周壁溝(建物内への水の浸入を防ぐための溝)が確認できます。

○溝

主に調査区の東側で、幅2m前後の溝が3条見つかっています。いずれも土器を多く含んでいました。





調査地東半部全景(北西から)



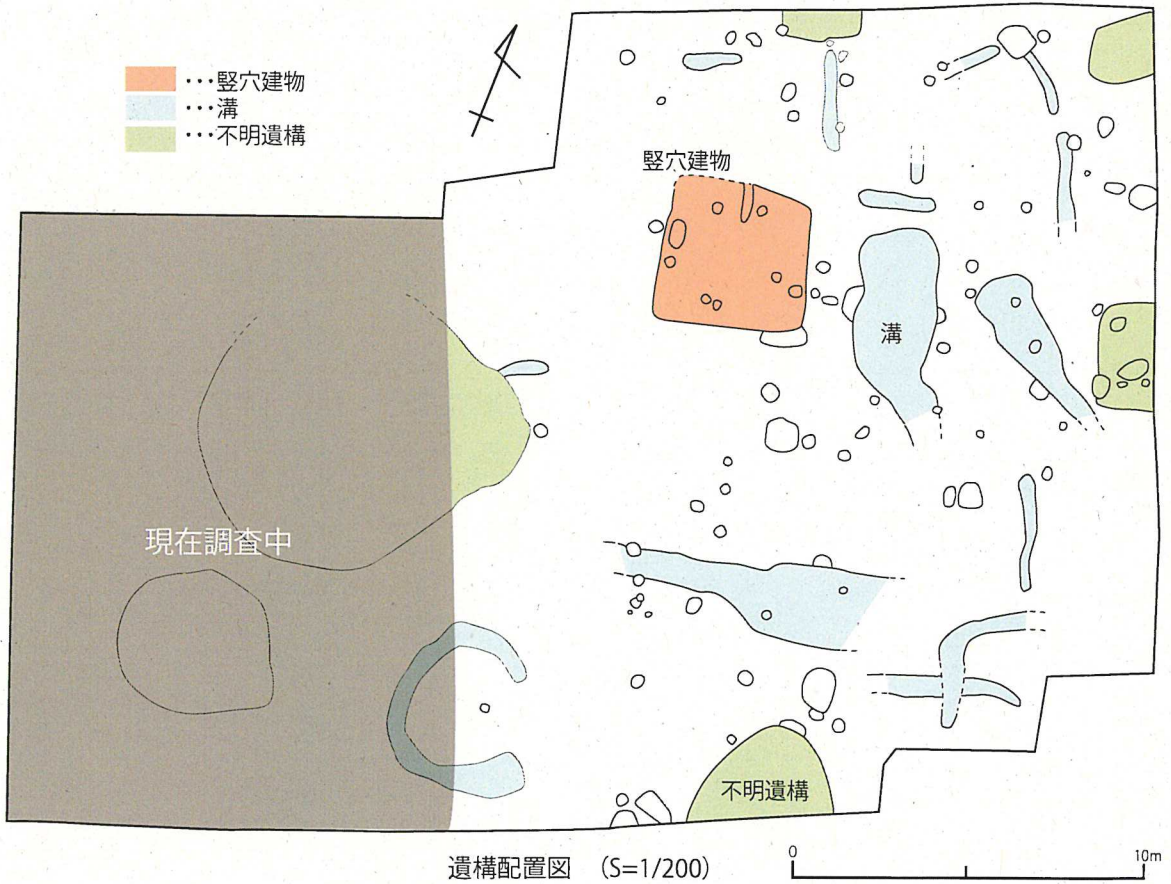
調査地中央部全景(北西から)



竪穴建物(西から)



調査地南東部全景(南から)



今回の発掘調査および現地説明会の開催にあたっては、和田興産株式会社のご協力を得ました。